

## エビデンスに基づく穴性研究

関 隆志

東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター 高齢者高次脳医学研究部門  
〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3

### 目的

経穴にはそれぞれ異なった効能があると多くの文献に記載されている。個々の経穴を刺激したときの血行動態を比較すると、知られている経穴の効能には妥当性があるという報告がある。その報告を文献の効能と併せて経穴の効能を再考する。

### 方法

1978年から2010年の間に出版された文献に記載された足三里の効能と足三里を刺激したときの血流量の変化の報告をもとに足三里穴の効能を検討する。

### 結果

経穴の複数の効能間に因果関係があると仮定し、血流量のエビデンスを勘案したときの足三里の効能案を図1に提示した。

### 考察

今回、経穴が血流量に及ぼすわずかなエビデンスを用い検討したに過ぎない。今後、血流量以外の定量的なエビデンスも加え、網羅的に、経穴の効能を検討していく必要がある。

### 結論

文献に記載された経穴の効能と定量的なデータを統合して検討する方法は経穴および鍼灸の作用機序を解明する有効な方法のひとつになり得ることが示された。

